

協同運営による ラーニング・コモンスの学習支援

目的・趣旨 |

ラーニング・コモンスは、教育・学習形態の転換に対応した施設・設備の不足と学生の居場所の不足を解消し、学士力向上を目指した学習環境の構築と学習支援の実施を目的として設置されました。学生に対し「大学での学びを総合的に支援する場所」という運営方針のもと、「知的空間」の創造と様々な部署による“人的サービス”を実施しています。

実施内容 |

ラーニング・コモンスは図書館棟とは別の教育・研究棟に設置されています。席数は154席であり、学生の用途に応じてPCエリア（PC14台、20席）、グループワークエリア（86席）、ミーティングエリア（32席）、ラーニングサポートエリア（16席）に区分しています。

管理・運営については、ハード面を教学支援部所属のコンシェルジュが行い、人的サービスであるソフト面をコンシェルジュ、図書館、就職、留学、情報関係等の事務担当が実施しています。またサービスには、各部署が単独で行うもの、複数の部署が協力して行うものがあります。

コンシェルジュはラーニング・コモンスに常駐し、資料や機器備品（ノートPC、プロジェクト等）の管理・貸出、掲示の作成、SNS等の更新、AO機器や学習に関する質問対応、各部署が行うサービスのサポート等、ラーニング・コモンスに関わる全ての業務に携わっています。

また、図書館が実施している「ラーニング・コモンス・レファレンス」は、若手研究者（非常勤教員、大学院博士後期課程の学生等）が講

師となり、それぞれの専門分野を生かしたイベント形式の企画です。現在は教育学、心理学、宗教学、仏教学、歴史学の分野に対応しています。

ほかにも、留学担当の「ランゲージ・サポート・センター」や情報関係担当の「スマートフォン・アプリケーション講座」といった企画も実施しています。また、教員はこれらのサービスへの参加や授業をラーニング・コモンスで行うことで、学生とラーニング・コモンスをつなぐ役割として運営に協力しています。

総合的な支援を目的としたこれらのサービスは、授業に対する学習支援と授業以外の学習支援に区分することができます。授業に対する学習支援としては、学生の自発的な学習を促すために、資料の収集および活用といった基礎的な学習スキルの習得を目指したサービスを行っています。授業以外の学習支援としては、学生生活や卒業後に役立つスキルの習得に向けた、就職活動、資格取得、留学等に関するサービスを提供しています。そしてこれらのサービスにおけるグループ学習を通じて、学生のプレゼン力、問題解決力、PC活用力といった汎用的スキルの向上も目指しています。



図書館とコンシェルジュの共同企画である
ビブリオバトルの様子

実施成果 |

ラーニング・コモンズを様々な部署と連携して運営することによって、「大学での学びを総合的に支援する場所」として幅広い学習支援を展開することができました。これは、多くの教職員から見た多角的な学習支援の在り方が共有され、それを展開できたことが要因であると考えています。また、サービス数の増加はワンストップサービスの実践につながっており、利用者の多いラーニング・コモンズに集約したことで、サービスに対する周知効果と学生の利便性が向上しました。そのため、各サービスへの参加者数は増加傾向にあります。更に教員との連携は、FD (Faculty Development) としての機能を有するだけでなく、学科を超えた教員同士の協働にもつながっています。

教職員はサービスを通じて学生の意見を直接聞くことができるため、学生のニーズ把握の面においても役立っています。各担当者はこの情報を共有し、今後の改善に生かすことができます。



留学相談 (手前) とランゲージ・サポート・センター (奥)

参考文献・URL |

- ・ ラーニングコモンズのブログ
http://www.tais.ac.jp/learning_commons/blog/
- ・ Facebook <http://www.facebook.com/TaishoUniversity.LC/>
- ・ 小幡誉子「大正大学における図書館外ラーニング・コモンズの効果と課題」『大学マネジメント』9(7),2013,pp.27-34.

連絡先 |

大正大学教学支援部

〒170-8470 豊島区西巣鴨 3-20-1 TEL: 03-3918-7311

今後の展開・課題 |

現在の目標は更なるサービス数の増加と質の向上です。サービスを実施していく中で、学生が他学科及び他学年との交流のきっかけを探していることがわかったため、学生同士のコミュニケーションを主とした企画の導入を考えています。また、授業や学科と連携し、学生が主体となってサービスを自ら立案・実施するという企画も検討しています。更に、これらのサービスは学生と学びをつなぐ仕掛けとしての役割も果たしているため、各サービスの質の向上に向けて改良を重ねていく予定です。今後は運営の連携範囲を広げて大学全体との協働を図り、ラーニング・コモンズが大学と学生をつなぐ存在となることを目指しています。